

国立病院機構東京医療センター脳神経内科

- ① 病院概要 東京医療センターは国立病院機構の基幹病院であり、東京都区西南部二次医療圏（目黒・世田谷・渋谷）の三次救急医療機関です。場所は駒沢オリンピック公園に隣接し、慶應義塾大学病院からは北西へ約 10km の距離と近隣にあります。救命救急センターを有する地域中核医療機関であり、多くの急性期疾患に対応しています。内科専門研修、初期研修には若手の医師が全国のさまざまな地域（大学、出身地）から参加して切磋琢磨しています。幅広く診療科がそろっており、多くの分野の臨床研修指定施設にもなっていて、さまざまな疾患の診療が行われています。神経学会の教育施設であり、脳卒中学会の一次脳卒中センター（PSC）、臨床教育施設です。
- ② 神経内科の特徴 対象とする疾患は神経救急疾患から慢性疾患まで偏りなく対応しています。救命救急センターがあり、二次・三次救急の受け入れも積極的に行なっていることから神経救急疾患に対する診療も重要な役割です。そのため入院の対象疾患は急性期疾患／神経救急疾患（脳血管障害、てんかん、神経免疫疾患など）が多く、症状、疾患の種類も多彩です。脳梗塞超急性期治療として、アルテプラゼによる血栓溶解療法も担っています。脳梗塞超急性期の血栓回収療法は当院脳外科医師と連携する場合も近隣の病院との連携して施行する場合（区西南部 drip, ship & retrieve 医療連携）もあり、脳外科医師と良好な連携・交流をしています。幅広い診療科からさまざまな疾患に付随した神経徴候、神経疾患の相談・依頼があり、その診断・治療にも積極的に関わっています。
- ③ スタッフ 2022 年度の脳神経内科の構成メンバーは 5 名（神経専門医 4 名）です。診療責任者である科長 1 名、医師（常勤） 3 名、レジデント（内科専攻医） 1 名です。ローテーションで他の内科系専攻医と研修医が交代で参加してきます。おのおののメンバーは脳血管疾患、神経免疫疾患、変性疾患などの専門・得意とする分野を有し、協力・連携して診療を行います。実診療は専門領域に限らずに担当することになっています。神経内科医としての経歴もおのおの異なり、大学病院で研修した者、神経専門病院で研鑽を積んだ者、他の急性期病院でも研鑽を積んだ者など、各自の経歴で得た経験を集約して診療に携わっています。現在は女性の常勤医師がたまたまおりませんが、以前から常勤医師、レジデントに女性医師は長年在籍していたこともあり、病院としても女性医師に活躍してもらえる環境を備えています。